

愛知県豊田市農業委員会（目標地図のブラッシュアップに向けた取組）

【農業委員会の体制】（令和5年7月20日任期開始 新制度移行後3期目）

農業委員19名、農地利用最適化推進委員45名、事務局職員7名

1 地区の特徴・状況、課題

愛知県北部に位置し、平坦部から中山間部まで変化に富んだ地形にあり、米・野菜・果実・花きなどの生産が盛んで、梨・桃なども県内有数の産地となっている。一方で、農業従事者は60歳以上が8割近くを占めるなど高齢化が進行し、農業後継者不足が問題となっており、特に中山間地は深刻である。これにより、農地の保全が懸念されており、担い手の確保が課題となっている。

2 課題解決に向けた活動（取組と工夫）

- 豊田市は、市内全域を14地区に分けた協議の場ごとに、地域計画（目標地図）を完成させた。
- 本市では、地区ごとに農地利用の状況や課題が大きく異なることから、市内全域を6地区に分け、定期的に地区農業委員会を開催し、推進委員を主体に意見交換及び情報共有を行っている。
- 令和6年11月以降、同委員会において、「目標地図のブラッシュアップに向けた取組」及び「目標地図の実現に向けた取組」について協議を重ね、目標地図を作成した14地区ごとに、今後、優先的に行うべき最適化活動を具体化した。



3 活動の成果

- 令和7年2月、目標地図のブラッシュアップに向けた取組として、一部地区において、目標地図内の「担い手調整中農地」を対象に、地区内推進委員全員で、改めて現地調査を行い、耕作条件の良し悪しを3段階に分けて判定した。これは、今後、耕作条件の良い「担い手調整中農地」から優先的に担い手探しを行うための活動である。また、この活動で得た農地情報について、新規就農希望者等に効率的に情報提供できる手段など検討していく。